

今週の富大生

# Weekly TOMIDASEI

第10号

医学部 医学科 1年  
片山学園高等学校  
(富山県)

学生時代にしかできない活動に注力



## 環境と経験から医学の道へ

父が医師であることや家族が病気を経験したことから、医療に携わりたいと思い医学科を志望しました。家族からも「受験や国試もそうだけど、働き方も大変だよ。でも自分でそう決めたなら応援するよ」と背中を押してもらいました。

## 大学入学後は、好きな読書の時間も確保

受験勉強はコツコツまじめにやらなくてはいけないと自分で思っていたので、高校のカリキュラムに沿った勉強を頑張っていました。ただ、寝る時間はきちんと確保するようにしていました。

勉強に加え、高校時代は吹奏楽部に所属し二年次には部長を務めていたことから忙しく、なかなか読書の時間が取れなかったため、大学合格後はその時間を取り返すように本を読み漁っています。

## サークル活動で続けている、 地域の人との交流

大学入学後は、小児科訪問サークル「青い鳥」に入りました。高校の頃進路について考えているときに、ニュース番組で子どもたちと触れあう「青い鳥」の活動が取り上げられているのを見て興味を持ちました。子ども食堂で子どもと遊んだり、小学校での性教育講座、漢方カフェなど活動は多岐にわたります。普段の大学生活では関わる事ができない、子どもから年配の方まで接することができ楽しいです。サークル自体の居心地も良く、先輩方から勉強に関する情報収集もさせてもらっています。

## 社会にも目を向けながら将来を見据える

進みたい診療科は決まっていませんが、医学の視点からいずれば社会問題にもアプローチしていきたいという思いを持っています。

患者さんの背景を理解して地域の人々から信頼される医師になりたいと思っています。

まずは大学6年間、一人前の医師になるためにしっかり勉強するとともに、社会との繋がりが持てる「青い鳥」での活動を通じて地域の人々と関わっていききたいです。そして、医師になってからも向上心を持って常に学び続けていきたいと思っています。



## 母校の後輩へ

受験勉強は大変だと思いますが、頑張った経験はその後の自信につながると 생각합니다。余計なことに惑わされずに、初心を忘れないで頑張ってください。